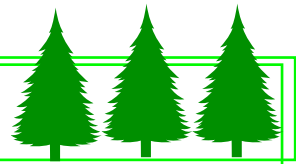


みつぎ便り



第162号 3月号 令和2年3月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次会」です



ハコベ

ハコベは漢字で書くと「繁縷」はせくらでハコベの小さな姿とはとても不似合いな感じがします。見次公園内でもあちらこちらに生えており、春になると白い小さい五弁の花を咲かせ、虫眼鏡で覗くと、その可憐さにハッと気付かされます。

このハコベは葉緑素を含み、昔から薬草や食用として用いられ、江戸時代には、粉末にして塩と混ぜて、

歯槽膿漏しそうのうろうの予防に良いと、歯磨き粉として用いられていたようです。

文鳥やニワトリもハコベが好物で餌として摘んだことがある人もおられるのではありませんか？

また、春の七草の「ハコベラ」もこのハコベのことで、昔の人もハコベを摘んで食べていたようですね。久しぶりにそのほろ苦い春を味わってみてはいかがでしょう。 (静)

君がため 春の野にいでて若菜

摘む 我が衣手に雪は降りつつ

光孝天皇

シュロカヤツリ(棕櫚蚊帳吊)

見次公園のボート小屋の北、湧き水が池に注ぎ込む所に大きなかたまりで生育しています。浮島にも少し見られます。多年草で湿地に生え、根元は水に浸るかそれに近い程度の水気がある所に生育します。



原産地はアフリカのマダガスカルで観葉植物として持ち込まれ帰化しています。葉は退化して無く、葉のように見える細長い苞ほうがあります。細長い茎の先端に苞ほうを放射状にひろげます。夏から秋に穂を付け、穂は最初は黄緑色をしています。徐々に淡褐色に変色します。熱帯地方ではムシロなどの材料に使われています。 (重)